

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

100

2025. 3. 6

兵庫県協同組合連絡協議会40周年記念号

1. 各団体ロゴ	1	Contents	6. 協同組合研究・交流会	7
2. 兵庫JCC会長挨拶 岩山利久	2		7. IYC2012を受けての取り組み	8
3. JCA専務お祝いコメント 比嘉政浩	3		8. 大学生に対する食の支援の取り組み	9
4. ひょうごの協同組合活動紹介	4		9. 虹の仲間づくりカレッジ	10
5. 国際協同組合デー・兵庫県記念大会	6		10. 協同組合間連携の取り組み	12



●編集発行
兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA(農協)・JF(漁協)・JForest(森林組合)

●兵庫JCC事務局
兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 894-3207
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(0794) 87-0062
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013
ひょうご森林林業協同組合連合会 TEL(078) 599-7461

“協同”の力で切り拓く持続可能な地域社会へ



兵庫県協同組合連絡協議会 会長
(兵庫県生活協同組合連合会 会長理事) 岩山 利久

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）が設立されて40年が経ちました。その記念となる機関紙「ひょうごJCC第100号」の発行にあたり、この間この協議会を支え続けていただいたみなさまへ、こころより感謝をいたします。

さて、兵庫JCC設立宣言は、1984年7月7日の国際協同組合デー兵庫記念大会において採択され、兵庫県内の協同組合関係者の団結が呼びかけられました。その頃の社会情勢は、世界的な環境破壊や核戦争への危機感が増大しつつあり、国内では食料自給率の低下と農産物の輸入枠拡大、外材輸入、国際的な漁場規制などの問題が協同組合を取り巻いていました。

そして40年後の現在、状況は好転しているとは言い難く、加えて日本では人口減少に伴い労働力人口が減り、生産の担い手不足と消費市場の縮小が進むことで、くらしの基盤である地方経済の成長も困難な状況になりつつあります。地域の抱える課題、それに伴う各協同組合の組合員のニーズも多様化してきており、単独の協同組合が解決するには限界があります。

私たち兵庫JCCはこの40年にわたり、それぞれの協同組合が事業基盤とする地域において、特徴を生かした実践的で持続的な連携の形をつくり出してきました。今後更に、共通する地域のコミュニティの課題に対し、協同を社会に広げていく運動体として果たすべき役割が問われています。

そして2025年は国連の決定により、二度目の国際協同組合年（IYC）となりました。これは、混迷が続く世界情勢の中で、人々が「助けあう」ことに希望を見いだしたい、そして「協同」への理解と行動を強く促すことを、協同組合に託したいというメッセージだと感じています。時代が変わり、人々のくらし方が変わろうとも、人がつながって支えあう行為は変わることはありません。つながるしくみを創造していく協同組合も社会の変化に合わせて変わっていく必要があります。

兵庫JCCはそのことを強く認識し、持続可能な地域社会づくりに向けて更なる協同組合間の協同・連携に挑戦してまいります。今後ともみなさまからのご支援、ご指導をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

都道府県協同組合連携組織に期待すること



日本協同組合連携機構（JCA）

代表理事専務 比嘉 政浩

兵庫JCC発足40年、機関誌「ひょうごJCC」の100号発行、誠におめでとうございます。

JCAとして兵庫JCCに学び、他県に紹介させていただいています。ありがとうございます。

<二度目の国際協同組合年がやってきた!>

国連は本年2025年を2012年以来、二度目の国際協同組合年（International Year of Cooperatives = IYC、以下「IYC2025」）に決めました。国連が同じテーマで二度目の国際年を定めることは稀なことで、その背景には、2030年の目標達成に向けて世界中で課題が山積しているSDGsの担い手としての協同組合への一貫した評価があると思います。

IYC2025は二つの面でチャンスです。IYC2025を定めた国連決議には日本政府も賛成しています。JCAを事務局として発足したIYC2025全国実行委員会（以下「実行委員会」）は、協同組合の振興をテーマに国会決議の実現を要請します。

また、2012年の国際協同組合年には、それを契機に様々な協同組合が連携した多様な取り組みが生まれました。今回もこの機会を生かして協同組合関係者を鼓舞し、新たな取り組みの実践につなげていきたいと思っています。

<IYCと相性がいいのは「学び」「発信」「一緒に」>

実行委員会では、全国の協同組合に対して呼び掛け文を出し、IYC2025を契機とした協同組合の振興に向けた取り組みの実践を提起しています。IYCと相性がいいのは「学び」「発信」することです。国連はなぜ協同組合を高く評価するのか、自身が関係する協同組合の取り組みと関連付けて学ぶこと、国連からのメッセージや実行委員会が提供する資材を活用してその取り組みを発信することが、協同組合の振興には効果的です。

そして、「この機会を活かしたい」とお考えの仲間は、他の協同組合にも必ずおられます。仲間を見つけた際には、是非一緒に実践されることをお勧めします。IYC2025を契機に、私たちは協同組合について今一度学び、仲間と一緒に新たな取り組みを実践し、その取り組みを発信しましょう。そして、協同組合や協同の輪を広げましょう。

兵庫JCCをはじめとする県域協同組合連携組織には、県域でのIYC2025の実践主体になっていただくことを期待しています。

ひょうごの協同組合活動紹介

兵庫県生活協同組合連合会の取り組み



兵庫県生活協同組合連合会は、県下の生協を中心に協同組織体を会員とする連合会です。相互互助の精神に基づき、会員の事業の発展を図り、会員の構成員たる組合員の生活の文化的経済的向上を図ることを目的としています。兵庫県生活協同組合連合会は、32の会員生協の皆様とご一緒にこの目的を達成するために、「つながる力で未来を拓く～平和で持続可能な社会の実現～」をテーマにさまざまな活動を進めています。

伝えひろげよう！平和への想い

子どもたちが安心してくらせる平和な社会の実現を願い、さまざまな平和の取り組みを進めています。2023年度はピースアクション実行委員で「ヒロシマ平和訪問」「神戸戦跡ウォーク～歩いて、学んで～」 「南あわじ戦争遺跡を訪ねるバスツアー」を実施しました。

また、購買生協・医療生協などでは「平和のつどい」や「映画会」「講演会」など多彩な活動を展開し、広く平和の大切さを伝えつづけています。



みんなで健康づくり

医療生協が取り組みをすすめてきた「健康チャレンジ」を、2018年度から県下の生協や他の協同組合組織も一丸となった取り組み「ひょうごまるごと健康チャレンジ」として、拡大・実施しています。

行政機関や諸団体等との連携により、県民の「心と身体の健康習慣づくり」を後押しし、2023年は舞子公園で「うみかぜ音楽祭×健チャレMEETS」イベントを開催しました。



兵庫県漁業協同組合連合会の取り組み



兵庫県漁業協同組合連合会は、明石市に本所を置き、県下の沿海地区を中心に19ヶ所の事業所を展開して、燃油・資材の供給、のり・鮮魚の加工・販売、のり養殖漁業の研究、漁協の運営相談などの事業活動を行うことで、38の正会員（JF）とともに、兵庫県の漁業の発展のために役割を果たしています。

豊かな海づくりへの取り組み

瀬戸内海では、海域の貧栄養化により漁場の生産力が低下しており、その対策が喫緊の課題となっています。豊かな海と持続的な水産業の実現に向け、兵庫県では、工場・下水処理場での栄養塩管理運転により海域に供給される栄養塩類の増加に取り組んでいるほか、漁業関係者が豊かな海を取り戻そうと海底耕耘や、ため池のかいぼり、有機肥料を用いた漁場への栄養添加に取り組んでいます。



食育活動「出前おさかな講習」

次世代を担う小中学生を対象とした、兵庫県内で漁獲される魚やその漁法、漁業を取り巻く環境等の基本を学び、また魚を見る・触る・捌く・食べるという体験ができる「出前おさかな講習会」を開催しています。

地元の魚の美味しさを伝え、地産地消の促進と魚食文化の伝承、海の恵みに感謝する心を育むことを目的とし、2023年度は約5,600人の子どもたちが受講しました。



兵庫県農業協同組合中央会（JAグループ兵庫）の取り組み



JAグループ兵庫では、組合員の営農活動や生活の向上のために、農業者に対する指導事業や、農業生産資材・生活物資を共同で購入し供給する購買事業、農畜産物を集荷・販売する販売事業を行っています。また、貯金の受入や資金の貸付を行う信用事業や、万が一の場合に備える共済事業など、組合員の営農と生活に関わる事業を総合的に実施しています。JAグループ兵庫は、農業者の営農活動と地域の農業振興、生活インフラとしての役割を担い、安心して暮らせる豊かな地域社会の実現を目指しています。

食農教育活動の実施

農業体験や親子料理教室、地元の学校への出張授業などを通じて、地域農業の役割や「食」と「農」のつながりを伝える「食農教育活動」を実施しています。

この活動を通じて、地元産の農畜産物の良さを地域住民に伝え、地産地消の促進や豊かな食生活の実現、農業に対する理解の醸成に取り組んでいます。



こども食堂への食材提供

子どもやその保護者に対して、無料・安価で食事を提供する「こども食堂」に、米や野菜などの食材提供を行っています。こども食堂は、単なる食事提供の場としてだけでなく、孤食の解消・地域交流の場など、様々な役割を果たしており、この取り組みを支援することで、地産地消の促進や、子育て支援等の地域貢献活動を続けていきます。



ひょうご森林林業協同組合連合会の取り組み



兵庫県には、県土面積の約67%を占める56万ヘクタールの森林が広がっています。県下に17ある森林組合は森林所有者である組合員が協同して経済的、社会的地位の向上並びに森林の保続培養及び森林生産力の増進を図ることを目的に、森林組合法に基づいて設立された組織です。ひょうご森林林業協同組合連合会では、林業資材や兵庫県産木製品の販売、ICTを活用した先進的な森林調査や森林整備、森林・木材の教育・普及啓発活動などにより森林組合や市町などの森林づくりのサポートを行っています。

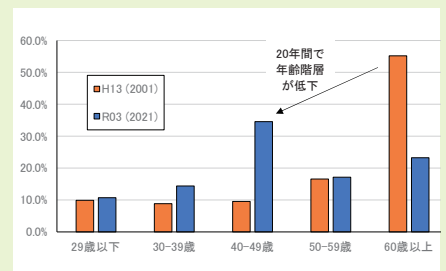
持続可能な森林づくりへの取り組み

新植面積（新たに苗木を植林した面積）と保育面積（過去に植栽した人工林の間伐や下草刈り等をした面積）はこの20年間で減少しています。一方で、木材生産量は20年前と比べて9倍近く増加しました。このように、昨今の林業のあり方は“木を育てる”→“育てた木を収穫する”にシフトチェンジしています。



若返りが進む林業

兵庫県内の森林組合における年齢階層別労働者は、この20年間で大きく若返りが進んでいます。全産業の若年者率が全国的に低下する中、林業従事者の平均年齢は2000年の56歳から2020年には52歳まで下がりました（令和4年度森林林業白書）。これは林野庁の「緑の雇用」事業により、新規就業者へ必要な講習や研修を行うことでキャリアアップを支援してきた効果と考えられます。



国際協同組合デー・兵庫県記念大会の歩み

国際協同組合デーは、1923年に国際協同組合同盟（ICA）が毎年7月の第1土曜日を、協同組合への認知を高め、協同組合運動を広めることを目的とする日として定めたものです。兵庫県では、国際協同組合デーの前日の金曜日に協同組合運動の前進を誓う催しとして「兵庫県記念大会」を開催しており、1984年の第62回記念大会にて、兵庫JCCの設立宣言が採択されました。



記念大会では、参加した協同組合関係者一同が、今後の協同組合運動の更なる発展を誓う「兵庫JCC宣言」を行うとともに、様々な著名人を招き、協同組合運動の実践に向けた学習のための講演会を実施しています。

【記念大会での講演者一覧（2004年～2023年）】

2004年 第82回	『笑いと健康』 林家染二氏（落語家）
2005年 第83回	『食と健康～食育は手作り料理から』 林繁和氏（辻学園調理技術専門学校・辻学園日本調理師専門学校 教授）
2006年 第84回	『人と自然の共生～夢とロマンの環境保全』 中村幸昭氏（鳥羽水族館名誉館長）
2007年 第85回	『わらし医者“いきいき”生きる』 早川一光氏（総合人間研究所所長・元堀川病院理事長）
2008年 第86回	『こころの窓を全開に～みなと神戸の先人に学ぶ』 玉岡かおる氏（作家）
2009年 第87回	『賀川豊彦と協同組合』 野尻武敏氏（神戸大学名誉教授・コープこうべ協同学苑長）
2010年 第88回	『今日の環境問題と持続可能な地域づくり』 小川雅由氏（NPO法人こども環境活動支援協会事務局長）
2011年 第89回	『心地よい暮らしを守るために～自然と共に生きる』 浜美枝氏（2012国際協同組合同年全国実行委員会委員）
2012年 第90回	『海と共に生きる～震災復興と森は海の恋人運動～』 畠山重篤氏（牡蠣の森を慕う会 代表）
2013年 第91回	『つながろう 新しい明日へ』 中桐万里子氏（二宮尊徳より七代目子孫 関西学院大学講師）
2014年 第92回	『阪神・淡路大震災20年を迎えます。あの日、放送し続けて』 谷五郎氏（ラジオパーソナリティ）
2015年 第93回	『地域福祉と協同組合の役割』 堀田力氏（公財 さわやか福祉財団 会長）
2016年 第94回	『協同（人のつながり）の力で地域の課題を解決しよう！兵庫の協同組合に期待しています』 山崎亮氏（コミュニティデザイナー／studio-L代表）
2017年 第95回	『おひとりさまとおたがいさま』 上野千鶴子氏（東京大学名誉教授、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長）
2018年 第96回	『知っていますか？ SDGs（持続可能な開発目標）～国谷裕子さんと考える、誰一人残さない社会』 国谷裕子氏（ニュースキャスター）
2019年 第97回	『私たちの選択が未来を変える～エシカル消費のすすめ～』 末吉里花氏（一般社団法人エシカル協会代表理事）
2021年 第99回	『あなたの選択で変わる30年後の天気予報』 正木明氏（気象予報士・防災士）
2022年 第100回	『賀川ハル～豊彦の妻として、同志として～』 玉岡かおる氏（作家）
2023年 第101回	『みんなが幸せに生きるために～たのしく健康に！食の大切さのおはなし～』 枝元なほみ氏（料理研究家）

※2020年（第98回）は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

協同組合研究・交流会の歩み

兵庫JCCでは、発足以来、組合員・役職員の交流や、協同組合が抱える課題についてともに考える研究会を実施してきました。その歴史を振り返ってみます。

もともと、産地と消費地とが交流する取り組みとして、1975年度から、兵庫県農協婦人組織協議会（当時）と灘神戸生協（当時）等との間で、「産地・消費地交流会」が行われてきました。この取り組みは、生協組合員が農家を訪問して農作業を行い、意見交換会を行うという形で行われていました。

その後、1987年度に兵庫JCCが主催団体となって、「協同組合婦人交流会」が行われるようになり、生協・JA・JFでの交流が行われるようになりました。1989年度には、新たに「兵庫県協同組合間協同経験交流会」が始まり、広く組合員・役職員を対象として行われるようになりました。この交流会は第2回以降、「兵庫県協同組合研究会」として、協同組合が抱える課題について、有識者による講演や、先進事例の実践報告が行われています。また、1991・1992年度には、「中堅職員交流会」が行われました。

1996年度には、交流を中心とした取り組みが兵庫JCC職員交流会（後に兵庫JCC役職員交流会となる）に一本化されました。

その後、2008年度に「兵庫県協同組合研究会」と「兵庫JCC役職員交流会」を統合して、「協同組合研究・交流会」として今に至っています。「協同組合研究・交流会」は、当初、講演やパネルディスカッションを行い、兵庫県産で作られた昼食をとりながら交流を深める形で実施していましたが、2011年度以降は、生産現場や協同組合の現場を訪問し、当事者の方から話を聞くという形を中心に実施しています。

<近年の協同組合研究・交流会>

年度	訪問先
2011年度	北はりま森林組合の視察
2012年度	兵庫県水産会館で料理教室、漁協組合長の講演
2013年度	JA兵庫南でそば打ち体験、農場、カントリーエレベーターの視察
2014年度	コープこうべ食品工場、集配センター、商品検査センターの視察
2015年度	JF坊勢、JF坊勢とれとれ市場、JF兵庫漁連水産加工センターの視察
2016年度	兵庫県森林組合連合会be材供給センター、朝来森林組合の視察
2017年度	JAたじま本店、こうのとりのカントリーエレベーター、コウノトリ育むお米の圃場、こうのとりの郷公園の視察
2018年度	コープこうべハイム本山・阪神友愛食品(株)、甲南大学生協iCommons、兵庫県立尼崎の森中央緑地の視察
2019年度	兵庫県林業会館、緑の雇用事業の現場視察
2021年度	坊勢島漁業観光船「ふじなみ」による漁業見学、水産加工場見学
2022年度	JA丹波ひかみ出資農業法人、JA丹波ささやま組合員農家の視察
2023年度	大阪府のハートコープいずみ・いずみエコロジーファーム・コープ野々井店の視察

※2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止



IYC2012を受けての取り組み

国際連合（以下、国連）では、1957年から「国際年」を総会採択・決議しています。これは、特定の事項に対して特に重点的問題を解決するために、国連をはじめ全世界の団体・個人に呼びかけるための期間です。

国際協同組合年（International Year of Co-operatives、以下IYC）は、2009年12月の第64回国連総会で宣言されました。これは、協同組合の社会的役割を重視し、協同組合の認知度の向上、協同組合の設立や発展の促進およびそのための政策の実行を政府や関係機関に働き掛けることが目的でした。スローガンとして「協同組合がよりよい社会を築きます」が掲げられ、世界各地で様々な取り組みが行われ、日本でも2012国際協同組合年全国実行委員会が立ち上げられた他、国際協同組合同盟のアジア太平洋地域総会が2012年11月26～30日に神戸市で開催されました。

兵庫JCCでも、IYC2012を受けて、2012年1月12日に「2012国際協同組合年宣言イベント キックオフ大会」を兵庫県農業会館で開きました。県知事のほか、県内の生協・JA・JF・森林組合の組合員・役職員約350名が参加し、神戸大学の野尻武敏名誉教授（故人、役職は講演当時のもの）の講演等を通じて、協同組合の歴史や理念を再認識し、今後の役割を考えました。また、協同組合の認知度を高めるため、協同組合の事業・活動や、震災の時に果たした役割を紹介したパンフレットを制作し、各種イベントで配布したほか、兵庫県民農林漁業祭やひょうご森のまつり、中播磨ふれあいフェスティバルにブースを出し、各協同組合の特徴をいかした「特製カキのトマト仕立て海鮮スープ」を販売しました。

国際協同組合年は2012年で終了しましたが、今後の協同組合のあるべき姿を考えるために、2013年に各協同組合の次世代を担う職員を集め、「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を開催しました。県内を回って各協同組合が事業をしている現場について見聞を広め、最後にグループに分かれて、今後、協同組合でどのようなことができるようになればよいか意見交換を行いました。

2025年は二度目の国際協同組合年です。兵庫JCCではさらに取り組みを進めてまいります。



【講演を行う故・野尻名誉教授】



【農林漁業祭でのPRの様子】

大学生に対する食の支援の取り組み

取り組みのはじまり

2020年からの新型コロナウイルス感染症のまん延により、県内の大学では、長期にわたる休講やオンライン授業化によって学校に通えず孤立する大学生が増加しました。

また、アルバイトの機会の減少等によって、経済的に困窮する学生も増加したため、兵庫JCCでは兵庫県産のお米や水産物を大学生協に提供、大学生協がその食材を使用して開発した「丼メニュー」を学生食堂で安価で供給することで、食を通じた大学生の支援の取り組みを開始しました。



取り組みの特徴

この取り組みは、大学生に対する経済的な支援だけを目的にするのではなく、メニューを選んだ学生に、兵庫県産の食材を選択することで、地産地消に貢献していることや、食材の提供が兵庫JCCの協同組合の連携によって実現していることを伝えることで、兵庫県の一次産業や協同組合の認知度の向上にもつながる取り組みとして展開しました。取り組みは、新聞やTVなどのメディアにもとりあげられ、兵庫県の一次産業や協同組合のPRにつながりました。2023年の取り組みでは、食材だけでなく、兵庫県産の間伐材の割箸もメニューとともに提供し、協同組合を紹介する二次元コードを箸袋に掲載して、学生に対して兵庫県の一次産業と協同組合のさらなる認知度向上を図りました。

メニューを食べた学生に対して実施したアンケートでは、協同組合に期待することとして「地産地消の推進」や「地域の活性化」等の回答が多くあり、協同組合に対する期待を改めて確認することができました。



【大学生協との連携による「学生への食の支援」の実績】

	2020年	2021年	2022年	2023年
実施期間	第1回 11/2～11/6 第2回 12月～	11/1～11/5 (一部 11/8～12)	10/31～11/4	10/30～11/2
供給食数	5,000食分	5,000食分	10,000食分	12,000食分
提供したメニュー	第1回：4種提供 釜揚げしらす丼 ハタハタ磯辺揚げ丼 赤エイ唐揚げ丼 黒鯛天ぷら丼 第2回： 兵庫県産米をメニュー食材に使用	5種提供 釜揚げしらす丼 ハタハタ磯辺揚げ丼 アカエイ唐揚げ丼 クロダイ天ぷら丼 明石だこ入りコロケ丼 ※各メニューに兵庫県産新米使用	3種提供 釜揚げしらす丼 アカエイ唐揚げ丼 クロダイ天ぷら丼 ※各メニューに兵庫県産新米コシヒカリ使用	3種提供 釜揚げしらす丼 アカエイ唐揚げ丼 クロダイ天ぷら丼 ※各メニューに兵庫県産新米コシヒカリ使用 +兵庫県産杉の間伐材の割箸をセット
実施生協数	10大学生協	9大学生協	9大学生協	10大学生協

虹の仲間づくりカレッジの歩み

取り組みのはじまり

2012年の「国際協同組合年（IYC）」を契機として、これからの協同組合の役割を模索する動きが広がるなか、兵庫JCCでは、県内の協同組合の結びつきを更に発展させたいとの思いから、新たな取り組み「虹の仲間づくりセミナー」を2015年に実施しました。「虹の仲間づくりセミナー」では、コープこうべ協同学苑に県内の協同組合の職員が集い、宿泊での交流も含めた全5日間の研修プログラムを通じて、職員同士が顔の見える関係を構築し、くらし・地域・社会の中でそれぞれの団体が果たすべき役割についてともに考えました。

その翌年からは、協同組合を学び続ける学校でありたいとの思いから、取り組みの名称を「虹の仲間づくりカレッジ」に変更しました。「虹の仲間づくりカレッジ」では、協同組合の歴史や成り立ち、その多様さを学ぶとともに、理念や価値、現代における役割について考え、参加者同士の対話によって協同組合に共通する考え方や異なる視点について意見交換することで、相互理解を深めていきました。

2023年の第8期を含め、これまでに160人以上がカレッジを巣立っていきました。



プログラムの特徴

「虹の仲間づくりカレッジ」の研修プログラムの特徴は初回の研修で、理念学習や講演などの基礎的なインプットを行い、2回目以降は、協同組合の役割を果たすための実践事項について、参加者同士で自由に企画して進めていることです。

グループワークによって、地域の中にある共通課題を見つけ、その改善・解決のために「協同組合間協同」によって実践することを検討します。検討段階では、協同組合の事業拡大や存続のためだけでなく、持続可能な地域社会づくりにつながることを実践するという方針で企画が練られます。常に「協同組合の役割」に立ちかえることを意識して企画を完成させ、自分たちで実践します。実践後には、結果を各グループから報告・発表し、実践から得られたことを共有します。その結果、参加者の普段の業務の中で役立つ“つながり”や“発想”が生まれ、その体験を聞いた他の職員の刺激にもなっています。



2019年1班
＜木を食べる＞



2017年1班
＜淡路島でのかいばり＞



2016年3班
＜食に関する関心を持つ＞

●これまでのテーマと企画内容

年度/人数	テーマ	実践企画（課題）
2015年 33人	自分の仕事と協同組合のミッションがつながる ～乖離しがちな協同組合の理念と日々の業務の関係性について考える～	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生対象の食育 ・協同で企画する職員研修 ・ギブミーベジタブル協同組合間協同バージョン ・高齢者、障がい者に食を提供できるシステム ・次世代エネルギー ・都市農山村交流グリーンツーリズム ※2015年は全て企画のみ
2016年 25人	漁協青壮年部「流通消費拡大事業」を軸に、大学生を対象とした協同組合協同による食育推進	1 班：地元の恵みたっぷり兵庫鍋を作ろう！ 2 班：学生食堂での兵庫県産食材を使った朝食メニューの提供 3 班：大学生対象 牡蠣の殻むき等作業体験 4 班：大学生対象 料理教室 ～兵庫の魚を食べよう！ ～食べて守ろう兵庫の海～
2017年 16人	『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で取り組む『職員のボランティア活動』の実験的展開	1 班：淡路島でのかいぼり（漁業者と農業者が連携した、ため池のかいぼり活動） 2 班：西宮市の社家郷山で生態系・森林保全を学ぼう！ 3 班：さる×はた合戦～篠山での獣害対策の取組～
2018年 26人	『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で考え、実践につなげる	1 班：協同組合合同インターンシップ 2 班：ごみ問題を解決する（各団体から出る食品残渣のたい肥化など） 3 班：海の豊かさを伝えよう！（知ってほしい未利用魚や食文化を伝える） 4 班：次世代に向けた見える化～協同組合を知ってもらうために～（職員に向けた賀川豊彦記念館での学習と各団体の説明など） 5 班：地域のつながりづくり（移動店舗の拠点でのセミナー等）
2019年 22人	『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で考え、実践につなげる	1 班：木を食べる（森林をめぐる問題を知り、木をもっとつかってもらおう） 2 班：地域活性化（若年層の地元意識の希薄化→地元の良さを知る＝タコ釣り） 3 班：海ごみ・マイクロプラスチック（マイクロプラスチック採取とペットボトル菜園） 4 班：ジェンダー平等（〇〇家作戦会議・料理教室）
2020年 12人	『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で考え、実践につなげる	1 班：子ども食堂での、海苔を通した豊かな海づくりの学習 2 班：里山と海の活動団体と連携し、地域竹林の整備と利活用を考える ①里山と漁業、素材生産者を繋ぐ資源循環アクティビティ（牡蠣いかだづくり） ②未利用材（竹材）を利用した地域活性化アイデア（竹炭洗剤づくり） 3 班：廃棄している水産物・農産物の有効活用による子ども食堂の支援
2021年 16人	『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で考え、実践につなげる	1 班：オンライン親子防災教室 2 班：ため池のかいぼり ※コロナで中止 3 班：SDGs大作戦（LINEオープンチャットで魚食普及・海の寛容を守る）
2023年 10人	SDGsの目標をふまえて『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で考え、実践につなげる	1 班（班名/リトルマーメイド）：魚を知ってもらう（水産加工センター見学と学習会） 2 班（班名/食わず嫌い）：学童保育の子どもとさかなの学習会 3 班（班名/明日は我が身）：食を通じた健康意識増進活動

※2022年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

協同組合間連携の取り組み



生活協同組合コープこうべでは、兵庫県の地魚本来の美味しさや食べ方を伝え、兵庫県の魚食文化の継承を図るため、JF兵庫漁連と連携し、「ひょうご地魚推進プロジェクト『とれぴち』」に取り組んでいます。

店舗の鮮魚売り場での産直市の実施や、組合員を招いた産地見学ツアー・料理教室の開催により、豊かな海の重要性や産地消費の大切さを伝え、兵庫県産水産物の産地消費の促進を図る取り組みです。



JA兵庫南（加古川市）では、特産品であるキャベツ等の規格外品の有効活用のため、JF明石浦（明石市）と連携し、ムラサキウニの養殖研究を進めています。

養殖ノリや海底の海藻類の被害の原因となるため駆除されたムラサキウニを、規格外野菜を活用して美味しく飼育することで、単なる規格外品の活用だけでなく、新たな特産品の誕生が期待できる取り組みです。



JF兵庫漁連では、JA兵庫六甲の農産物直売所「パスカルさんだ一番館」内に、直営店「漁連の魚屋 三田店」を2016年にオープンしました。

新鮮な魚介類や店内調理の総菜・お寿司など兵庫県産魚介類を中心に多数の商品を取り揃えており、旬の魚をテーマにイベントを開催し、JA組合員や地域の消費者に県産魚の魅力や浜の魚食文化、兵庫の海の情報を発信する拠点になっています。



ひょうご森林林業協同組合連合会では、2008年から生活協同組合コープこうべが実施している里山保全活動「コープの森・社家郷山」において、活動開始当初から森林の調査・整備・学習会に携わっています。

私たちは、こういった活動を通じて消費者の皆さんに森林整備の重要性や地域木材の積極的利用を意識していただくことが大切だと考えています。

